

## 授業概要

SDGsという言葉がいよいよ社会全体において浸透してきました。今日までに人類は、人間を中心とした諸活動を続けた結果、地球全体で様々な問題を抱えることとなり、このままではもう一つ地球が必要になるとまで言われている中、人類共通の目標として、17のゴールと169の具体的なターゲットが示されたものです。ゴールを2030年とする中、半分を折り返す時期となってきており、いよいよ企業や個人人の取り組みも含め、地球全体で本格的に取り組まなければならなくなってきました。SDGs達成にはビジネスの力が不可欠とされています。本演習においては、一つひとつのゴールの実現のために、具体的にどのような社会変革が必要であるか、どのような新たなビジネスの視点が必要であるか等も含め、ディスカッションやプレゼンテーション経験なども行いながら理解を深め、自身のキャリアビジョンにつなげられる力を養成することを目的とし、指導します。

## 授業計画

第1回	SDGsとは?	第16回	住み続けられるまちづくりを(ゴール11)
第2回	身近なことからSDGsを考える	第17回	つくる責任つかう責任(ゴール12)
第3回	17のゴールと169のターゲットの関係	第18回	気候変動に具体的な対策を(ゴール13)
第4回	5つのP ①(人間(People)・豊かさ(Prosperity)・地球(Planet))	第19回	海の豊かさを守ろう(ゴール14)
第5回	5つのP ②(平和(Peace)・パートナーシップ(Partnership))	第20回	陸の豊かさを守ろう(ゴール15)
第6回	貧困をなくす(ゴール1)	第21回	平和と公正をすべての人に(ゴール16)
第7回	飢餓をゼロに(ゴール2)	第22回	パートナーシップで目標を達しよう(ゴール17)
第8回	すべての人に健康と福祉を(ゴール3)	第23回	地球の諸課題とビジネスの関係
第9回	質の高い教育をみんなに(ゴール4)	第24回	SDGsから見えてくるビジネスニーズ
第10回	ジェンダー平等を実現しよう(ゴール5)	第25回	SDGsとマーケティングの関係
第11回	安全な水とトイレを世界中に(ゴール6)	第26回	事例から学ぶSDGs①(航空機産業他)
第12回	エネルギーをみんなにそしてクリーンに(ゴール7)	第27回	事例から学ぶSDGs②(自動車産業他)
第13回	働きがいも経済成長も(ゴール8)	第28回	ビジネスの発展につながるSDGs
第14回	産業と技術革新の基盤をつくろう(ゴール9)	第29回	SDGsが生み出す未来のビジネス
第15回	人や国の不平等をなくそう(ゴール10)	第30回	まとめ

## 到達目標

- ・書く能力、コミュニケーション能力、論理的思考、プレゼンテーション能力が習得できる。
- ・SDGsを熟知し、地球上の諸課題について理解を深める。
- ・問題解決のための具体的な方法について、多面的な視点から考えることができる。

## 履修上の注意

好奇心旺盛な学生の皆さんを歓迎します。就職に備えて、この機会にSDGsすべてについて説明できるようにしましょう。また具体的な地域社会支援活動として産学連携活動にも是非関心を持ってください。

## 予習復習

毎回の単元前に予習1時間程度、演習後に復習1時間程度の自主学習の課題の提示を行う。

## 評価方法

試験(最終レポート含む)60%、小レポート及びプレゼンテーション40%

## テキスト

- ・教科書名:『SDGsが生み出す未来のビジネス』
- ・著者名:水野雅弘・原裕著
- ・出版社名:インプレス
- ・出版年(ISBN):ISBN9784295008965 1680円

## 授業概要

新型コロナウイルス感染症からの出口がようやく見えてきた日本および世界では、経済、企業経営、社会、産業の面で大きな変革が進展しており、新しい経済社会の姿が構築されつつあります。この演習では、主に経済、企業経営、産業動向、社会生活などの分野において現在進行しているトレンドを理解することによって、皆さんが社会人になるうえでの基礎的な知識を身に着けることを目的とします。各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

## 授業計画

第 1 回	この演習で学ぶこと	第 16 回	産業動向 —物流 DX—
第 2 回	新型コロナ禍を克服し、経済の再生へ	第 17 回	産業動向 —半導体産業の復活—
第 3 回	SDGs/ESG の動向	第 18 回	産業動向 —食料問題—
第 4 回	DX の進展と新しい働き方	第 19 回	産業動向 —メタバース—
第 5 回	人的資本経営の潮流	第 20 回	産業動向 —通信インフラ—
第 6 回	「新しい資本主義」実現に向けて	第 21 回	産業動向 —データ可視化—
第 7 回	ダイバーシティ実現への道筋	第 22 回	産業動向 —インバウンドの復活—
第 8 回	企業経営 —知的戦略と情報開示—	第 23 回	産業動向 —5G 時代の先—
第 9 回	企業経営 —経済安全保障—	第 24 回	国内太陽光発電
第 10 回	企業経営 —中小企業の ESG 対応—	第 25 回	水資源ビジネス
第 11 回	企業経営 —M&A の動向—	第 26 回	炭素クレジット
第 12 回	企業経営 —新卒採用—	第 27 回	生物多様性
第 13 回	企業経営 —カーボンニュートラル—	第 28 回	水素エネルギー
第 14 回	企業経営 —健康経営—	第 29 回	サステナビリティ情報の国際会計基準
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ
		第 31 回	課題レポートの提出

## 到達目標

- 日本および世界経済、産業動向、企業経営、社会生活などの分野における基本的な知識や考え方を理解し、それらに基づき課題や改善策などを指摘することができる。
- 報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。
- 各回のテーマについて、有意義な議論を展開することができる。

## 履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することが基本的な履修条件です。また、本演習では就職活動に向けての各種の指導も実施する予定です。

## 予習・復習

テキストの指定された箇所を事前に読んで理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

## 評価方法

担当個所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

## テキスト

- ・教科書名：『2023 年 日本はこうなる』
- ・著者名：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（編）
- ・出版社名：東洋経済新報社
- ・出版年：2022 年 11 月 ISBN：978-4-492-39672-8 ￥1,980（税込）

## 授業概要

本演習は、おもに2冊の本を読むことで、「考えることの楽しさ」や「情報を正確に読みとる力、ものごとの筋道を追う力。受け取った情報をもとに自分の論理をきちんと組み立てられる力」を身につけ、「自分の頭で考えていくことができる」やり方を学び、今後の講義や演習、社会に出て実践する能力を身につけて欲しいと思います。具体的には、事前にテキスト、ケースや論文を読み、その要約とコメントをレジュメとして毎回提出してもらいます。それをもとに全員でディスカッションと教員から理論の解釈について説明をおこないます。

## 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	知的複眼思考法とは何か①
第2回	思考の整理学 輪読1	第17回	知的複眼思考法とは何か②
第3回	思考の整理学 輪読2	第18回	創造的読書で思考力を鍛える①
第4回	思考の整理学 輪読3	第19回	創造的読書で思考力を鍛える②
第5回	思考の整理学 輪読4	第20回	考えるための作文技法①
第6回	思考の整理学 輪読5	第21回	考えるための作文技法②
第7回	思考の整理学 輪読6	第22回	問いの立てかたと展開の仕方①
第8回	思考の整理学 輪読7	第23回	問いの立てかたと展開の仕方②
第9回	思考の整理学 輪読8	第24回	問いの立てかたと展開の仕方③
第10回	思考の整理学 輪読9	第25回	複眼思考を身につける①
第11回	思考の整理学 輪読10	第26回	複眼思考を身につける②
第12回	ケース①：経営戦略	第27回	ケース①：ビジネスモデル
第13回	ケース②：経営組織	第28回	ケース②：新規事業創造
第14回	ケース③：製品開発	第29回	ケース③：ベンチャー企業
第15回	ケース④：国際経営	第30回	ケース④：オープン・イノベーション
		第31回	レポート

## 到達目標

- ① 『思考の整理学』を読んで理解できる
- ② 『知的複眼思考法』を読んで理解できる
- ③ ケースを通じて実際の企業の経営課題等が理解できる

## 履修上の注意

- ①遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ②演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

## 予習・復習

- ①予習は、テキストの次回の講義の該当箇所を読んで、レジュメ（要約とコメント）を作成してください。
- ②復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

## 評価方法

- ①毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ②講義・ディスカッションへの参加度合を評価します。30%
- ③レポートの提出を評価します。20%

## テキスト

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書名：思考の整理学</li> <li>・著者名：外山 滋比古</li> <li>・出版社名：筑摩書房</li> <li>・出版年 (ISBN)：1986年 (978-4480020475)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書名：知的複眼思考法</li> <li>・著者名：荻谷 剛彦</li> <li>・出版社名：講談社</li> <li>・出版年 (ISBN)：2002年 (978-4062566100)</li> </ul> |
|---|--|

## 授業概要

経済には、なぜ変動があるのでしょうか。それは、政府の経済運営が間違ってしまった結果なのでしょうか。多分にその要因はあるかとは思いますが。しかしながら、もしそうなのだとすれば、どこがどのように間違ってしまったのか、それを修正するためにはどうすればよいのか、については、経済の仕組みを理解する必要があります。なぜ好景気と不景気は交互にやってくるのか。不景気を克服するためにはどのような施策が求められるのか。そして、そもそも「景気」とは何か。

本基礎演習では、こうした経済の仕組みを理解するために、さまざまな角度から経済というものを考えられるように指導する。

## 授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	回帰分析の方法 1
第 2 回	コンピューターの機能 1	第 18 回	回帰分析の方法 2
第 3 回	コンピューターの機能 2	第 19 回	回帰分析の方法 3
第 4 回	EXCEL の機能 1	第 20 回	回帰分析の方法 4
第 5 回	EXCEL の機能 2	第 21 回	回帰分析の方法 5
第 6 回	EXCEL の機能 3	第 22 回	回帰分析によるモデル分析 1
第 7 回	表の作成と計算 1	第 23 回	回帰分析によるモデル分析 2
第 8 回	表の作成と計算 2	第 24 回	回帰分析によるモデル分析 3
第 9 回	表の作成と計算 3	第 25 回	回帰分析によるモデル分析 4
第 10 回	表の作成と計算 4	第 26 回	回帰分析によるモデル分析 5
第 11 回	表の作成と計算 5	第 27 回	回帰分析による予測 1
第 12 回	適切なグラフの作成 1	第 28 回	回帰分析による予測 2
第 13 回	適切なグラフの作成 2	第 29 回	回帰分析による予測 3
第 14 回	適切なグラフの作成 3	第 30 回	回帰分析による予測 4
第 15 回	適切なグラフの作成 4	第 31 回	まとめ（授業内容の確認）
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

## 到達目標

- ある経済の傾向や法則を知るためには、どのようなデータを収集すればよいか、を理解できる。
- 集まったデータをどのように処理すればよいか、について理解できる。
- 2 つの関係あるデータを結び付け（単純回帰分析）、両者の間にどのような関係があるか、について、統計の方法を学ぶことで理解することができる。
- 興味のある経済や経営のデータについて、今後の動きがどうなるか、についての確に予測することができる。
- 3 つ以上の関係あるデータを結び付け（多元回帰分析）、より多くの情報を取り込むことによって、よりの確な予測をすることができる

## 履修上の注意

Excel 上での回帰分析を用いた経済分析は、これまで学んでこなかったことであると思われるので、毎回の講義に出席をして、しっかりノートを取り、統計学の方法を自分のものとしてもらいたい。講義で用いるデータ以外にも、自分の興味のある産業のデータを用いるなど、多くのチャレンジをしてもらいたい。

## 予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。また、自分に興味のあるデータは身の回りにあふれているので、そうしたデータに積極的に取り組んでももらいたい。

## 評価方法

毎回の参加状況、発表の準備状況、ならびに討議への参加状況などを踏まえて評価する。

## テキスト

教科書については、できるだけ手に入りやすく、またできるだけ安価なものを考えている。したがって、基礎演習が開始された時点で、参考書を含めて指定することにする。

## 授業概要

(1) 私たちは、どの世界で活動する場合においても、次の①から③のような思考及び実行の過程を繰り返して、目標（夢）実現に立ち向かいますので、次の点を講義・訓練をします。①ある特定の「目標」実現に向けて「問題点」を発見し、②その問題点を解決するために情報等を「収集」し、「分析」し、「検討」し、最も妥当な根拠のある解決策を「判断（決定）」し、③その解決策を、最も効率的効果・効果的な方法で「実行」する。

(2) 具体的には、皆さんが就職を突破するのに必要な技術(自分が何者かを理解している、自分の良さをアピールできる、自分には確固たる目標がある、人と話がスムーズにできる、自分の主張に根拠を付けることができる、社会人としての基本用語を身に付けるための講義・訓練をします。

## 授業計画

第1回	ガイダンス（自己紹介、授業進め方等）	第16回	私の目標を探す！⑥マンダラその6
第2回	アイスブレイキング	第17回	私の目標を探す！⑦マンダラその7
第3回	自分を知る！小中学校時代の私	第18回	私の目標を探す！⑧マンダラその8
第4回	自分を知る！高校大学時代の私	第19回	私の目標を探す！⑨マンダラその9
第5回	私はどんな人？マインドマップ作り①	第20回	人と話ができる！①雑談してみよう！
第6回	私はどんな人？マインドマップ作り②	第21回	人と話ができる！②説明してみよう！
第7回	私はどんな人？私の強みはこれ！	第22回	人と話ができる！③説明してみよう！
第8回	私はどんな人？私の弱みは、強味！	第23回	社会の用語を知る①地球・化学って？
第9回	私が学生時代に頑張ったこと①	第24回	社会の用語を知る②国・経済って？
第10回	私が学生時代に頑張ったこと②	第25回	社会の用語を知る③国際・社会って？
第11回	私の目標を探す！①マンダラその1	第26回	社会の用語を知る④人間って？
第12回	私の目標を探す！②マンダラその2	第27回	自分の主張に理由を言える！①
第13回	私の目標を探す！③マンダラその3	第28回	自分の主張に理由を言える！②
第14回	私の目標を探す！④マンダラその4	第29回	自己アピールまとめ
第15回	私の目標を探す！⑤マンダラその5	第30回	インターンシップ申し込み方法
		第31回	期末レポート

## 到達目標

- 1 自分はどのような性格、指向、興味、得意分野をもつ人間かを知ることができる。
- 2 自分は、どのような目標をもつ人間なのかを知ることができる。
- 3 人とコミュニケーションができる。
- 4 根拠をもって、自分の意見を主張することができる。
- 5 社会の基礎的時事用語の理解やSPIに正答することができる。

## 履修上の注意

- 1 授業には、毎回出席すること。会社員になってからの欠勤は、失職につながります。そんなことのないように、今から準備をする意味で、ゼミだけは、1日も欠席しないという1年間にして下さい。
- 2 宿題の提出及び提出期限も厳守です。なぜなら、社会人になったら、上司の指示に遅れて仕事をすることなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。
- 3 自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力が鍛えられます。
- 4 佐藤正勝ゼミ生は、2年次春期に「キャリアデザインⅠ」を、2年次秋期に「ビジネス社会と出会うⅠ・Ⅱ」を履修して下さい。

## 予習・復習

予習・復習は、宿題の実行、授業内容の徹底的な「理解・訓練・実行」を徹底して下さい。これらのための学習時間は、90分の授業1回につき、合計4時間とすることが、文科省の基準です。

## 評価方法

期末レポートへの配点が40%、宿題提出・発表の有無(注)その内容の良しあし等への配点等が60%です。  
(注)「宿題の提出・発表」は、基礎演習の単位を取得するための最重要事項です。

## テキスト

なし（授業で独自資料を配布します）

## 授業概要

本演習は、会計学の基礎を学習することを目的としている。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原則、企業会計基準の考え方や用語解説などである。基本的には専門書の輪読する方法です進めるが、また新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。後半では、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。

## 授業計画

第 1 回	会計学の意義	第 16 回	純資産の測定と認識 1
第 2 回	複式簿記の原理 1	第 17 回	純資産の測定と認識 2
第 3 回	複式簿記の原理 2	第 18 回	財務諸表の作成と解説 1
第 4 回	財務諸表の読み方 1	第 19 回	財務諸表の作成と解説 2
第 5 回	財務諸表の読み方 2	第 20 回	財務諸表の作成と解説 3
第 6 回	資産の測定と認識 1	第 21 回	レジュメ作成と発表の仕方 1
第 7 回	資産の測定と認識 2	第 22 回	レジュメ作成と発表の仕方 2
第 8 回	資産の測定と認識 3	第 23 回	レジュメ作成と発表の仕方 3
第 9 回	負債の測定と認識 1	第 24 回	各自のテーマの報告と討論 1
第 10 回	負債の測定と認識 2	第 25 回	各自のテーマの報告と討論 2
第 11 回	収益の測定と認識 1	第 26 回	各自のテーマの報告と討論 3
第 12 回	収益の測定と認識 2	第 27 回	各自のテーマの報告と討論 4
第 13 回	費用の測定と認識 1	第 28 回	各自のテーマの報告と討論 5
第 14 回	費用の測定と認識 2	第 29 回	各自のテーマの報告と討論 6
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

## 到達目標

- ・簿記知識は日商簿記 3 級以上の水準に引き上げる。
- ・発表レジュメを適切に作成することができる。
- ・発表能力を向上させる。

## 履修上の注意

- ・毎回必ず出席して欲しい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論して欲しい。
- ・就職試験に関する指導（ニュース検定試験などの実施）を行う。

## 予習・復習

- ・毎回の学習テーマについて予習及び復習をして欲しい。
- ・各期 3 回以上のレポートの提出を求める。

## 評価方法

レジュメの作成と発表（40%）、課題レポート（40%）、ゼミでの積極性（20%）などを総合的に評価する。

## テキスト

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年（ISBN）：
- ・必要に応じて文献などを紹介する。

## 授業概要

現代の社会は情報社会と称されるほど情報があふれています。そのなかで、入手した各種経済情報の正確な理解、その情報の分析、そしてそれを用いて的確な予測をたてることができるかどうか、がこれからの経済社会で行動するために必要です。

経済情報の基礎的なデータを加工し分析するためのツールとして代表的なものに Excel があります。本演習では、情報リテラシーの基礎として Excel の使い方を指導すると同時に、社会に出てから絶対必要な統計知識が身に付くよう指導する。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス 授業概要と評価方法	第 16 回	ガイダンス 授業概要と評価方法
第 2 回	履修計画を立てる 時間割表の作成	第 17 回	履修計画を立てる 時間割表の作成
第 3 回	PC で文字入力 タッチタイピング	第 18 回	相関関係と因果関係
第 4 回	文章作成 段落を作る	第 19 回	単純相関係数の計算
第 5 回	ノートの取り方 参照と引用	第 20 回	回帰式の考え方の基本
第 6 回	紙の新聞を読む	第 21 回	単純回帰・単純相関分析
第 7 回	Excel によるヒストグラムの作成	第 22 回	回帰式と相関係数の意味を読み取る
第 8 回	標本抽出	第 23 回	春期の振り返り
第 9 回	階級分けしたデータの作り方	第 24 回	証券投資分析の意義
第 10 回	平均・中央値・最頻値の計算	第 25 回	リターンの期待値とリスクの計算
第 11 回	中央値と最頻値の長所と短所	第 26 回	計算結果の解釈
第 12 回	平均・分散・標準偏差・変動係数の計算	第 27 回	リターンの相関係数の計算
第 13 回	分散と標準偏差の理論的な意味	第 28 回	計算結果の解釈
第 14 回	標準偏差の意味	第 29 回	ポートフォリオのリターンとリスク
第 15 回	変動係数の意味	第 30 回	課題レポートの体裁について
		第 31 回	

## 到達目標

- ・経済情報の基礎的なデータを加工し分析するためのツールとして Excel を使いこなすことができる。
- ・平均・分散・標準偏差・変動係数・回帰式・相関係数を計算することができ、計算結果を解釈することができる。
- ・Excel による証券投資分析を行い、自らに適した資産形成の方法を考えることができる。

## 履修上の注意

この授業は、PBL (Project Based Learning) を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行う。また、通常の学内教室以外で授業 (学外授業) を実施する場合がある。なお、遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

## 予習・復習

タッチタイピングの練習を事前に行うこと。講義で学習した内容を講義後にまとめる (保存しておく) こと。

## 評価方法

課題レポート 100% で評価する。また、毎回出席を取る。

## テキスト

特に指定はしないが、その都度推奨図書や参考図書を紹介し、その他必要に応じて、HP 等からのデータ引用を行う。

## 授業概要

テーマ：マーケティング（スポーツマーケティングも含む）

本演習では、マーケティングの基礎知識を学び参加者と議論を深めることにより、その知識を使って様々な現象を説明できるようになることを目的として指導します。「マーケティング」と言っても扱う現象は多様であり、必要な知識の深さや広さも膨大です。そこで、まずマーケティングに関する基礎的な内容を説明した文献を読み、それについて参加者同士で発表・議論することで理解を深めていくことを目標にします。その中で、プレゼンテーションのスキルを磨くことなども同時に指導していきます。

## 授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	プレゼンテーションの方法	第 17 回	顧客とコミュニケーションする①
第 3 回	ニーズを探る①	第 18 回	顧客とコミュニケーションする②
第 4 回	ニーズを探る②	第 19 回	顧客とコミュニケーションする③
第 5 回	ニーズを探る③	第 20 回	顧客とコミュニケーションする④
第 6 回	ニーズを探る④	第 21 回	顧客とコミュニケーションする⑤
第 7 回	ニーズを探る⑤	第 22 回	強いブランド、ビジネスモデルを作る①
第 8 回	製品を作る・価格を決める①	第 23 回	強いブランド、ビジネスモデルを作る②
第 9 回	製品を作る・価格を決める②	第 24 回	強いブランド、ビジネスモデルを作る③
第 10 回	製品を作る・価格を決める③	第 25 回	強いブランド、ビジネスモデルを作る④
第 11 回	製品を作る・価格を決める④	第 26 回	強いブランド、ビジネスモデルを作る⑤
第 12 回	流通させる・販売促進する①	第 27 回	実務の現場での実際
第 13 回	流通させる・販売促進する②	第 28 回	参加者による発表①
第 14 回	流通させる・販売促進する③	第 29 回	参加者による発表②
第 15 回	流通させる・販売促進する④	第 30 回	まとめ
		第 31 回	最終レポートの提出

## 到達目標

本演習は、以下の 3 点を到達目標とします。

- (1) マーケティングの基礎的な知識について、プレゼンテーションを用いながら説明できる。
- (2) マーケティングの基礎的な知識を使って、世の中の現象を説明できる。
- (3) マーケティングの基礎的な知識を使って、世の中の現象について他者と議論できる。

## 履修上の注意

- ・この演習は松原も含め参加者全員で議論し、理解を深め合います。毎回必ず出席してください。やむを得ず欠席（または遅刻）する場合は、必ず松原まで連絡をしてください。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- ・マーケティング論の履修と並行している前提で演習を行います。したがって、この演習を履修することと並行して、マーケティング論を必ず履修してください。
- ・そのほか、履修をする上で気になることがあれば、松原まで遠慮なく連絡をください。

## 予習・復習

予習：次回演習で扱うパートを読み、感想や気になったことをまとめる。発表担当者は発表資料を作成する。

復習：演習で扱ったパートの内容が、世の中の現象にどの様にあてはまるのかを考える。

## 評価方法

- ・発表（40%）、ディスカッションへの参加（30%）、最終レポート（30%）で評価します。

## テキスト

- ・教科書名：Q&A マーケティングの基本 50
- ・著者名：水越康介
- ・出版社名：日本経済新聞出版
- ・出版年（ISBN）：978-4-532-31654-9



**授業概要**

この授業は、ICT（情報通信技術）を企業経営にどのように活用しているかを学ぶ授業です。現代の経営に必要な経営資源（人、モノ、金、情報）を有効に活用して管理運営することです。その1つである情報を収集し分析し活用することが、企業経営の効率化と競争力の強化になります。この授業の目的は、情報技術について学び、その活用方法を学ぶことです。ですから、最初にコンピュータの基礎や情報通信技術を学び、企業でどのようにコンピュータが使われているかの事例を勉強します。また、発展目覚ましい情報通信技術の最近の注目技術としてAI(人工知能)、IoT (Internet Of Things) も紹介します。

**授業計画**

第 1 回	情報とは何か、情報化社会について	第 16 回	AI(人工知能)とは
第 2 回	ハードウェアの概要1	第 17 回	AIがもたらす社会の変化
第 3 回	ハードウェアの概要2	第 18 回	AIの活用事例
第 4 回	ソフトウェアの概要	第 19 回	AIを触ってみよう
第 5 回	ソフトウェアの種類	第 20 回	クラウドコンピューティング
第 6 回	コンピュータによる仕事の処理形態1	第 21 回	クラウド AI
第 7 回	コンピュータによる仕事の処理形態2	第 22 回	クラウド AI を動かそう
第 8 回	プログラミング学習 (Java 言語) -1	第 23 回	クラウド AI の演習1
第 9 回	プログラミング学習 (Java 言語) -2	第 24 回	クラウド AI の演習2
第 10 回	プログラミング学習 (Java 言語) -3	第 25 回	クラウド AI の演習3
第 11 回	プログラミング学習 (Java 言語) -4	第 26 回	グループで AI を動かそう1
第 12 回	プログラミング学習 (Java 言語) -5	第 27 回	グループで AI を動かそう2
第 13 回	プログラミング学習 (Java 言語) -6	第 28 回	グループで AI を動かそう3
第 14 回	プログラミング学習 (Java 言語) -7	第 29 回	発表会
第 15 回	前期のまとめ	第 30 回	まとめ

**到達目標**

この授業での到達目標としては、以下のとおり

1. ICT（情報通信技術）の基礎的なことを理解し、その概要を理解できること。
2. ICT（情報通信技術）を学習方法として、Java プログラミングを理解することができる。
3. AI（人工知能）を理解し、クラウドコンピューティングの環境で動かすことができる。

**履修上の注意**

前半は、座学を中心に ICT の知識を深める勉強をします。後半は、演習を取り入れて学習しますので、ノート PC またはタブレットを使用することになります。また、就職試験に関する指導を行います。例えば、ニュース検定試験、SPI テストなどを実施します。

**予習・復習**

各講義の内容について事前事後に自分でインターネットや本を基に学習することが望ましい。

**評価方法**

演習への積極的な参加30%、レポート提出30% 演習課題の評価40% などで評価する

**テキスト**

別途 連絡します。

## 授業概要

この演習はデータサイエンスの入門的事項を学ぶことを目標とします。社会における様々な課題を解決するには、その課題に関わる領域についての専門的知識が必要ですが、同時に、その課題に関連する多様なデータを収集し、分析し、どのような性質・法則が成り立ち、どのようなことが起きているかを解明し、それに基づく創造的判断が必要になります。このデータ収集・分析・構造理解と価値創造の一連の流れを体系化した領域がデータサイエンスと呼ばれ、日々進化しつつあります。2年次の基礎演習では、Excel と統計ソフトRを利用してデータサイエンスの入り口を学びます。3年次の専門演習では AI への応用を含む高度なデータサイエンスを学び、3年次秋から4年次には量子コンピューターを使ったデータサイエンスを学習します。

データサイエンスをしっかり学ぶと様々な分野への就職が期待できます。IT 企業はその中の一部です。

## 授業計画

第 1 回	春期ゼミオリエンテーション	第 16 回	秋期ゼミオリエンテーション
第 2 回	データサイエンスとは何か	第 17 回	非線形回帰分析 1 (考え方)
第 3 回	統計分析ソフト R のインストール	第 18 回	非線形回帰分析 2 (分析例 1)
第 4 回	R の仕組みと使い方	第 19 回	非線形回帰分析 3 (分析例 2)
第 5 回	R によるデータ処理 1 (データ形式)	第 20 回	アソシエーション分析 1 (考え方)
第 6 回	R によるデータ処理 2 (編集)	第 21 回	アソシエーション分析 2 (分析方法)
第 7 回	R によるデータ処理 3 (読み込み機能)	第 22 回	アソシエーション分析 3 (分析例)
第 8 回	R によるデータ処理 4 (読み込み比較)	第 23 回	決定木分析 1 (考え方)
第 9 回	R によるデータ処理 5 (出力機能)	第 24 回	決定木分析 2 (分析方法)
第 10 回	R によるデータ処理 6 (出力比較)	第 25 回	決定木分析 3 (分析例)
第 11 回	分析のためのデータ管理	第 26 回	ニューラルネットワーク 1 (基本概念)
第 12 回	線形回帰分析 1 (考え方)	第 27 回	ニューラルネットワーク 2 (モデル)
第 13 回	線形回帰分析 2 (分析方法)	第 28 回	ニューラルネットワーク 3 (分析例)
第 14 回	線形回帰分析 3 (分析例)	第 29 回	ニューラルネットワーク 4 (深層学習)
第 15 回	調査分析のデザイン	第 30 回	ニューラルネットワーク 5 (cnn)
		第 31 回	年間学習内容の確認

## 到達目標

- ・データ収集・分析・構造理解と価値創造の一連の流れを理解し、自分で簡単な分析を行うことができる。

## 履修上の注意

ゼミ室での実習用に各自ノートパソコンを持って来ることと、春学期の「データサイエンス」の履修が必要です。また、統計学関係の授業を履修済みまたは履修中の方が好ましいです。プログラミングの学習経験は問いませんが、2年次終了までに「プログラミング I・II」と全学共通科目の数学 2 科目の履修が必要になります。

欠席や遅刻をすると、学習内容がだんだん分からなくなってきます。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。メールアドレスはオリエンテーション時にお伝えします。

就職試験に関する指導を行います。例) 社会人基礎力の説明、2年次からの就活の進め方

## 予習・復習

予習：テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。レポーターになった人は皆に説明できるように事前の学習を進めてください。

復習：学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

## 評価方法

ゼミへの参加態度 (学習への積極的関与) 40 点、課題 60 点で評価します。合計 100 点のうち 51 点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が全回数の 3 分の 2 に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

## テキスト

「データサイエンス」の授業で指定する教科書

**授業概要**

本演習は、企業が開示している情報について学ぶことを目的とする。対象となる情報は、会計数値を中心とした財務情報と、それ以外の非財務情報とに分けることができる。2年次の基礎演習では、企業の経済活動に影響を与えているSDGsを理解し、世界が抱えている諸問題を知ることから始める。そのうえで、実際に企業が開示している情報を具体的に知るために、「有価証券報告書」を参照して、財務情報と非財務情報の全体像を概観する。

演習は、ゼミ生が何らかの課題についてレジュメを作成し、プレゼンを行い、質疑応答を行う形式を予定している。また、就職活動に備えた準備段階では、自らが積極的に企業のことを知る姿勢が大切であるため、その姿勢が養われるように指導する。

**授業計画**

第1回	SDGs（持続可能な開発目標）の意義	第17回	夏季休業中の課題報告とSPI演習②
第2回	環境問題の理解	第18回	財務諸表の役割と仕組み
第3回	環境問題の事例	第19回	財務報告に対する法的規制
第4回	経済問題の理解	第20回	会社法の計算書類
第5回	経済問題の事例	第21回	金融商品取引法の財務諸表
第6回	社会問題の理解	第22回	証券取引所での決算発表
第7回	社会問題の事例	第23回	貸借対照表（企業集団）
第8回	17の目標の理解①（目標1～4）	第24回	貸借対照表（流動資産）
第9回	17の目標の理解②（目標5～8）	第25回	貸借対照表（固定資産）
第10回	17の目標の理解③（目標9～12）	第26回	貸借対照表（負債）
第11回	17の目標の理解④（目標13～17）	第27回	貸借対照表（純資産）
第12回	〇〇社のSDGsに対する取組（第1グループ）	第28回	損益計算書（営業損益計算）
第13回	●●社のSDGsに対する取組（第2グループ）	第29回	損益計算書（経常損益計算・純損益計算）
第14回	グループワーク①（上記を踏まえた討論）	第30回	グループワーク②（上記を踏まえた討論）
第15回	SPI演習①と夏季休業中の課題の説明	第31回	3年次の専門演習に向けて
第16回	第2回～14回のみまとめレポート提出	第32回	企業の財務諸表に関するレポート提出

また、回数や内容は目安であり、進捗により適宜変更・調整する。また、人数にもよる。

**到達目標**

- 責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告ができ、質疑応答ができる。
- 上場企業が公表している情報の基礎知識を修得する。

**履修上の注意**

- 登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- 履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するキャリアセンター主催の行事）などを積極的に指示する。
- 全員参加の学外授業をする場合がある（他学年・他ゼミと合同のこともある）。

**予習復習**

- 予習：報告レジュメの作成。
- 復習：課題レポートの作成。

**評価方法**

演習時における積極的な参加姿勢とレジュメ50%、および提出された課題（期末レポート）50%を目安として評価する。

**テキスト**

- 教科書名：『財務諸表分析』
- 著者名：桜井久勝
- 出版社名：中央経済社
- 出版年（ISBN）：最新版（執筆時は、第8版、2020年）、（ISBN：9784502342417）  
3,740円（専門演習でも使用する予定です。）

## 授業概要

この授業では「日本経済新聞」の連載『私の履歴書』を教材に、松下幸之助、盛田昭夫、本田宗一郎など数々の名経営者たちの経営哲学に触れ、その「仕事の極意」、「プロフェッショナル論」、そして「人生の流儀」を学び、参加者全員で議論し、考えを深めていく。この過程を通して、有名企業の創業者たちの言葉、考え方に触発され、履修者諸君の自由な発想とチャレンジ精神を高めると同時に、資料収集力、整理・分析力、わかりやすく正確に伝える力の育成を目指す。終盤には補充教材を使ってIT業界の現役経営者たちについても調べ、理解を深めていきたい。

## 授業計画

第1回	オリエンテーション(授業の内容、目標、進め方、評価方法などの説明)	第16回	春期の内容を振り返って、秋期の目標を設定する
第2回	世間の「常識」を覆した企業家たち(総論Ⅰ)	第17回	会社とは何か、なぜ働くのか(総論Ⅰ)
第3回	逆境を乗り越えた苦勞人(総論Ⅱ)	第18回	必ず頭角を現す経営者の条件(総論Ⅱ)
第4回	大賀典雄(ソニー)	第19回	土光敏夫(石川島播磨重工業)
第5回	鈴木敏文(セブン&アイ・ホールディングス)	第20回	賀来龍三郎(キャノン)
第6回	本田宗一郎(ホンダ)	第21回	八尋俊邦(三井物産)
第7回	松下幸之助(松下電器産業・現パナソニック)	第22回	石坂泰三(東芝)
第8回	伊藤雅俊(イトーヨーカ堂)	第23回	大谷米太郎(大谷重工業)
第9回	市村清(リコー)	第24回	樋口廣太郎(アサヒビール)
第10回	立石一真(オムロン)	第25回	中内功(ダイエー)
第11回	宮崎輝(旭化成)	第26回	吉田忠雄(YKK)
第12回	安藤百福(日清食品)	第27回	IT業界の新世代経営者Ⅰ(自由選択)ービル・ゲイツ(マイクロソフト)、スティーブ・ジョブズ(アップル)、ジェフ・ベソス(アマゾン)、セルゲイ・ブリン(グーグル)など
第13回	議論・発表:以上の経営者たちの共通点は何か、それぞれの特徴は何か。	第28回	IT業界の新世代経営者Ⅱ(自由選択)ー孫正義(ソフトバンク)、三木谷浩史(楽天)、南場智子(DeNA)など
第14回	同上、つづき	第29回	IT業界の新世代経営者Ⅲ(自由選択)ー任正非(ファーウェイ)、馬雲(アリババ)、馬化騰(テンセント)など
第15回	春期内容のまとめ 春期定期試験	第30回	秋期内容のまとめ 秋期定期試験

## 到達目標

- 1、経営史、企業史の基礎知識が習得できる。
- 2、自分の考えや意見をわかりやすく正確に伝える力を身につけることができる。
- 3、著名な経営者、創業者たちの人生を振り返ることで、自分の人生目標を考えることができる。

## 履修上の注意

- 1、報告者は毎回分担内容をきちんと準備し、確実に発表すること
- 2、授業中の居眠りやスマホいじりはマイナス評価になる(認められる場合は検索が可能)
- 3、時間に余裕があるときに、履修者にそれぞれ気になるニュースを話し、自分の見解を述べていただく。

## 予習・復習

報告者でなくても予定の内容を事前に通読すること。

## 評価方法

授業態度(積極性、発表内容)60%、期末試験(40%)を総合して評価する。

## テキスト

初回の授業で指示する。

## 授業概要

この科目は、交通（鉄道・バス・航空・船舶）事業を中心に、交通と深く関わる観光、まちづくり（地方創生や地域活性）も対象に含め、能動的に学ぶ科目である。(1)人々がどう交通（公共交通・自家交通）を使っているか、(2)公共交通の鉄道・バス・航空・船舶がどれほど使われているか、(3)それらの事業者がどんな経営にあるのか、(4)解決すべき問題があるのかを学修する。

この科目では、講義（A）と演習（討議）（B）を1セットととらえ、演習では講義で学んだことから自分自身でさらに深く調べ、問題の解決手法についてなど自分自身の考えを表明する。それについて履修生どうしてディスカッション（討議）して、学修した知識をさらに深い学びにつなげていく。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	旅客・貨物の特性	第 17 回	交通事業の現状(6)トラック貨物 (A)
第 3 回	交通事業の経営形態 (A)	第 18 回	交通事業の現状(6)トラック貨物 (B)
第 4 回	交通事業の経営形態 (B)	第 19 回	交通事業の現状(7)航空・船舶貨物 (A)
第 5 回	交通事業の現状(1)幹線鉄道 (A)	第 20 回	交通事業の現状(7)航空・船舶貨物 (B)
第 6 回	交通事業の現状(1)幹線鉄道 (B)	第 21 回	ユニバーサルな交通 (A)
第 7 回	交通事業の現状(2)都市圏鉄道 (A)	第 22 回	ユニバーサルな交通 (B)
第 8 回	交通事業の現状(2)都市圏鉄道 (B)	第 23 回	新しい交通：リニア・BRT (A)
第 9 回	交通事業の現状(3)都市間高速バス (A)	第 24 回	新しい交通：リニア・BRT (B)
第 10 回	交通事業の現状(3)都市間高速バス (B)	第 25 回	感染症禍からの観光回復 (A)
第 11 回	交通事業の現状(4)国内線航空 (A)	第 26 回	感染症禍からの観光回復 (B)
第 12 回	交通事業の現状(4)国内線航空 (B)	第 27 回	交通とまちづくり (A)
第 13 回	交通事業の現状(5)鉄道貨物 (A)	第 28 回	交通とまちづくり (B)
第 14 回	交通事業の現状(5)鉄道貨物 (B)	第 29 回	2030 年・2040 年の交通・観光
第 15 回	ふりかえり	第 30 回	ふりかえり
		第 31 回	

## 到達目標

- (1) 交通を中心に、観光・まちづくりに関する分野でテーマを設定し、資料や情報を収集できる
- (2) 幅広い分野の中から自分が深く知りたい研究テーマを見つけられるようにする
- (3) 学んだ知識を活かして、自分自身で調べ、それを基に自分の考えを明確に表明できる

## 履修上の注意

- ・履修生の興味・関心、進行度合いによって、授業計画を変更・調整することがある
- ・双方向（インタラクティブ）方式の演習であるので、病欠などのやむを得ない事由を除き毎回出席する
- ・やむを得ない事由で欠席する場合は、事前に連絡する（第 1 回のガイダンスで詳細説明）

## 予習・復習

講義回で学んだことを踏まえ、自分自身の興味・関心のあるところでさらに調べ、自分の考え、問題解決手法の提案などを表明できるよう、復習・準備する。

## 評価方法

(1)発表の準備状況 35%、(2)ディスカッションへの参加状況 35%、(3)論理的な意見表明 30%、の3点で評価する。ただし、事前連絡なき欠席が一定回以上に達した場合は成績評価されない。

## テキスト

テキストを使用しないが、テーマや必要に応じて演習中に紹介する。

## 授業概要

本演習では、受講生には2~3名のチームを組んでもらい、講義内の事例研究に対するグループディスカッションや企業分析のレポート作成、ビジネスプラン(以下、事業計画書)のプレゼンテーションなど、自分で考えて発言する機会を多く設けることで知識の定着に努めると共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とします。具体的には、下記の通りです。

- ・春期は、会社の社会的役割、組織、経営、雇用形態など企業の基礎的な概要を理解し、2つ以上の企業の企業分析(比較分析)を行う。
- ・秋期は、企業がコロナ禍における変化の激しい時代を生き抜くための新しいビジネスの発想やビジネスモデルの変革について学び、事業計画書を策定しプレゼンテーションを行う。

また、最新の大企業や中小企業の企業分析を取り上げながら、基本的な内容を重視し、受講生の論理的思考力、判断力、プレゼン力、イノベーション力に必要な分析力、発見力や実行力といった能力の向上を図ることを目的とします。

## 授業計画

第 1 回	春期演習の概要	第 16 回	秋期演習の概要
第 2 回	個人企業と会社	第 17 回	プレゼンテーションの概要
第 3 回	株式会社とは	第 18 回	アントレプレナーシップの重要性
第 4 回	コーポレートガバナンス	第 19 回	新しい事業機会と評価
第 5 回	企業の組織構造	第 20 回	事業機会の評価
第 6 回	日本型企业組織	第 21 回	アイデアの創出と収益構造
第 7 回	企業と経営戦略	第 22 回	差別化戦略と SWOT 分析
第 8 回	M&A と戦略的提携	第 23 回	事業計画書の概要と起業
第 9 回	企業の社会的責任とステークホルダー	第 24 回	資金調達とお金の流れ
第 10 回	コンプライアンスと社会貢献活動	第 25 回	成長戦略と出口戦略
第 11 回	企業の財務分析 ①	第 26 回	新規ビジネスの事業計画書の策定 ①
大 12 回	企業の財務分析 ②	第 27 回	新規ビジネスの事業計画書の策定 ②
第 13 回	企業分析のレポート発表と討議 ①	第 28 回	新規事業計画書のプレゼンと討議 ①
第 14 回	企業分析の事レポート発表と討議 ②	第 29 回	新規事業計画書のプレゼンと討議 ②
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

## 到達目標

- ・大企業、中小企業の基本的な戦略、現状、問題点、将来性など、事例研究を通じて解釈できる。
- ・新規ビジネスの事業計画書を策定し、プレゼンテーションを行うノウハウを修得する。

## 履修上の注意

- ・ゼミ生の人数や進行度合いによっては、変更・調整することがある。
- ・ゼミではディスカッションインを中心としたインタラクティブ(双方向)な方式で進めるので、必ず毎回出席すること。
- ・2022 年日本経済の動向など、就職活動に役立つ指導を行う。

## 予習・復習

- ・各テーマに関連する新聞記事、雑誌記事などをピックアップして、演習内で発表すること。
- ・企業分析のレポートの作成、新規ビジネスの事業計画書の策定及びプレゼンテーションの内容は指示する。

## 評価方法

- ・成績は、出席状況、演習参加への姿勢・貢献度 40%、企業分析のレポート作成、新規ビジネスの事業計画書の策定とプレゼンテーション 60%により評価する。

## テキスト

- ・テキストや参考文献に関しては、必要に応じて演習中に指示します。

## 授業概要

(1) この演習では、様々なテーマを通じて経済学、経営学、会計学の基礎知識と考え方を学習・修得することを指導する。教員が授業を行うスタイルの講義ではなく「演習」であるので、学生自身の事前の調査・研究と教室での発表・討論を主軸に置いてゼミを進めていく。具体的には①専門分野の書籍を読み、現代社会では何が課題とされているのか、解決方法には何があるのかを指導する。②①の後、自分で調査研究を進め、自分自身の論理的な意見をもつ。③②の意見を発表。その後の議論を通じてよりブラッシュアップしていく。

(2) 経済・経営関係の書籍を基本テキストに取り上げ、内外の社会や経済のしくみを学ぶ演習にしたいと計画している（授業の詳細については、この演習を履修した受講生の関心や勉強希望の分野、学習能力を理解してから最終決定したい）。

(3) 春期、秋期に各1回以上、学外視察を行いたいと考えている（例：証券取引所、日銀、農場、工場等）

## 授業計画

第1回	ガイダンス：春期の基礎演習の進め方	第16回	ガイダンス：秋期の基礎演習の進め方
第2回	テキスト・資料を用いた報告と議論1	第17回	テキスト・資料を用いた報告と議論1
第3回	テキスト・資料を用いた報告と議論2	第18回	テキスト・資料を用いた報告と議論2
第4回	テキスト・資料を用いた報告と議論3	第19回	テキスト・資料を用いた報告と議論3
第5回	テキスト・資料を用いた報告と議論4	第20回	テキスト・資料を用いた報告と議論4
第6回	テキスト・資料を用いた報告と議論5	第21回	テキスト・資料を用いた報告と議論5
第7回	テキスト・資料を用いた報告と議論6	第22回	テキスト・資料を用いた報告と議論6
第8回	学外視察への準備	第23回	学外視察への準備
第9回	テキスト・資料を用いた報告と議論7	第24回	テキスト・資料を用いた報告と議論7
第10回	学外視察	第25回	学外視察
第11回	学外視察の報告会	第26回	学外視察の報告会
第12回	第1回 最終期末レポート発表と討論	第27回	第1回 最終期末レポート発表と討論
第13回	第2回 最終期末レポート発表と討論	第28回	第2回 最終期末レポート発表と討論
第14回	第3回 最終期末レポート発表と討論	第29回	第3回 最終期末レポート発表と討論
第15回	春期の基礎演習のまとめ (最終期末レポート提出)	第30回	秋期の基礎演習のまとめ (最終期末レポート提出)

## 到達目標

- 資料の検索方法、プレゼンテーションの方法、レポート資料のまとめ方を学び、習得できる。
- 書物から学習する能力を向上させることができる。
- 問題意識の持ち、問題点、課題点を考察、分析する能力をつける。自分の考えを持つことができる。
- 発表資料の作成、および発表、プレゼンテーションの能力向上させることができる（含む、PCソフトウェアポイント、エクセル、ワード→PC操作技術向上）
- 会議や議論における自分自身の能力（ファシリテーター力、論理的思考能力、コミュニケーション能力、ディベート力、会議をまとめ、議論を発展させる能力）を伸ばすことができる。

## 履修上の注意

- 演習は参加型授業なので、毎回欠かさず出席すること。欠席の場合は事前にメールで連絡。
- 授業では、積極的に発表、発言、質問、議論をすること。
- キャリア形成、就職試験に関する指導もおこないます（SPIテスト、時事問題、インターンシップなど）
- 教員情報は大学HP、インターネットでキーワード「福永肇」で検索して得てください。

## 予習・復習

- テキスト、または取り上げるテーマについて演習前によく読み、理解し、発表の準備をする。
- 予習、復習共に書籍、インターネットを活用して調べる。自分で調べる能力、技術を大学時代に取得する。

## 評価方法

・研究発表・プレゼンテーション(30%)、演習での討論への発言&貢献度(30%)、最終期末レポート(40%)で評価する。

## テキスト

- 演習での基本テキストは履修した学生と会ってから最終決定を行いたい。いずれにしても演習では多くの本や、配布する資料を読み込んでいく。
- 例：『人口減少社会のデザイン』広井良典著、東洋経済新報社。

## 授業概要

経営戦略を中心とした経営学領域の演習である。

論理的思考について学びながら、企業経営・経営戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

プレゼンテーションとグループワークなどを活用しつつ、読解力・コミュニケーション力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図り、思考力を身につけるよう指導する。

## 授業計画

第1回	春期概要：思考力を鍛える	第16回	秋期概要：経営戦略の事例を学ぶ
第2回	論理的思考：演繹法	第17回	ケース1：ストライプインターナショナル
第3回	論理的思考：帰納法	第18回	ケース2：すかいらく
第4回	論理的思考：相関関係と因果関係	第19回	ケース3：TOTO
第5回	論理的思考：事象の構造化	第20回	ケース4：幸楽苑
第6回	文章で説明する	第21回	ケース5：ハイデイ日高
第7回	文章で説明する	第22回	ケース6：パーク24
第8回	図解テクニック	第23回	ケース7：コマツ
第9回	図解テクニック	第24回	ケース8：富士重工
第10回	パワーポイント作成法：構造化	第25回	ケース9：富士フィルム
第11回	パワーポイント作成法：装飾	第26回	ケース10：ヤマトホールディングス
第12回	パワーポイント作成	第27回	ケース11：ソニー
第13回	プレゼンテーション①	第28回	企業研究①
第14回	プレゼンテーション②	第29回	企業研究②
第15回	プレゼンテーション③	第30回	企業研究③

第31回 筆記試験等(含むレポート)

## 到達目標

- 一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
- 企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。
- アイデアの発想法の基本を身につける

## 履修上の注意

- 授業内で指定する文献を購入する必要がある。
- 新聞記事やネット記事を読み、その内容についてプレゼンテーションやディスカッションなどを行い、社会人基礎力を鍛える。これは就職活動にも役立つものである。

## 予習復習

予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。

復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

## 評価方法

期末試験50%、レポート50%

## テキスト

授業内で指定する。